

Aoyama Coffee Fes

僕達ブルーペコは、1月にこれまで東ティモールのフェアトレードコーヒーについての勉強会で学んだ事と株式会社ゼンショーホールディングスに訪問して学んだことを展示物としてまとめて、コーヒーについて学ぼうというイベントを企画しました。

ポスター発表の他に、東ティモールコーヒーと調理研究同好会のパウンドケーキを味わいながら、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの永井亮宇さんから講演をしていただきました。

永井さんの講演

1. ピースウィンズ・ジャパンが目指すところ

①金銭的に持続可能な事業

現在寄付や若干のコーヒーの売り上げでピースウィンズ・ジャパンの職員の給料や維持費を保っているが、限りある予算の中で世界に目を向けるためにも東ティモールだけでなくイラクやシリアなどシフトチェンジしていかなければならない。そのため寄付や手助けがなくても継続できる事業を目指している。

②東ティモールの人だけで成立できる事業

現在東ティモールにある会社のトップはほとんど外国人でティモール人が企業に入り込めていない。例えばレジうちは計算が必要だし東ティモールの公用語はティトゥン語とポルトガル語なので英語話せる人がいない。この改善策と人材育成が必要でこれにはまだ最低3年かかると見積もっている。

2. 東ティモール産のコーヒーについて

コーヒーの生産作業の重労働のうち脱殻までネイティブの人がやっている。東ティモールにはコーヒー会社が四社ほどあり、家庭の状況に応じてコーヒー会社の選択ができるようになっている。ピースウィングス・ジャパンでは高品質のコーヒーのみを高値で取引し、生産者の収入向上と、おいしいコーヒーを作ろうというモチベーションをアップさせている。

3. 今後の課題

①現地の人材育成

②さらなる認知の向上

③販路の拡大

④農家の well-being の達成(収入向上プラスα)

収入が上がってこそ生活が安定し教育を受けることができる。一家庭少なくとも5人ほどの子供がいて子供が働き手になっている。そのためお金を使って何をやるのかを考えながら東ティモールの発展を考えている。

永井さんは東ティモールに滞在している時に東ティモールの人がお皿を洋服用の洗剤で洗っていて驚いたと言っていました。それはその村まで食器用洗剤が届かないからだそうです。いくらお金を手にする事が出来るようになっても物資の供給が行き届かなければ貧しいままで変わらないと聞いて驚きました。そこから、一人一人だけを見るのではなく、村全体を豊かにしないと意味はないのだと感じました。

また、エチオピアから来たコーヒーが今ではティモールハイブリッドと呼ばれるコーヒーへと変わっていったのは誇れる事であり、もっと色々な人に東ティモールのコーヒーを知ってもらいたいし、東ティモールの方々には胸を張ってコーヒーを生産して欲しいと思います。